

# 経済労働委員会 県外調査概要

## 1 岐阜県スマート農業推進センター

### 【調査目的】

岐阜県スマート農業推進センターの概要及びスマート農業について

### 【調査概要】

#### (1) 岐阜県スマート農業推進センターの概要

- ・令和2年運営開始
- ・ICTやAI、先端技術を活用してさらなる経営規模の拡大や高品質生産を実現するスマート農業の情報発信拠点
- ・モデル温室、オペレーションセンター、実演ほ場の3施設で構成。

#### (2) 岐阜県スマート農業推進計画について

- ・岐阜県スマート農業推進計画は第2期に入っている。計画期間は令和5年度から令和8年度までの4年間。
- ・重点施策は、①情報集約・発信、②技術の実証、③技術研修、④技術の普及、⑤新技術の研究、⑥農業DXプラットフォームの構築
- ・重点施策の内容

##### ①情報集約・発信

研修会の開催、視察の受入、最新のスマート農業機器の実践展示、スマート農業機械の貸出、岐阜県スマート農業推進センター機能の全県拡大

##### ②技術の実証

データ駆動型農業の実践・展開、国の実証プロジェクトによる実証を行う。

対象品種は、稲、大根、ホウレンソウ、栗。

##### ③技術研修

体系的なスマート農業研修、耕種関係、畜産関係、実践的研修

##### ④技術の普及

・スマート農業技術を活用した農業用機械等の導入に係る経費を支援しており、支援タイプは4種類

- 1、農業経営発展支援タイプ
- 2、中山間地域等農業機械共同利用支援タイプ
- 3、就農研修支援タイプ
- 4、栽培環境の見える化・データ活用支援タイプ

・岐阜県内のスマート農業技術を導入している経営体数は、平成29年は116

経営体であったが令和6年には741経営体と大幅に増加した。

⑤新技術の研究

- 1、【柿】非破壊で計測できるウェアラブル端末
- 2、【畜産】牛の健康状態をモニタリングできるバイタルセンサ
- 3、【病害虫】AI技術を活用した病害虫診断技術
- 4、【水稻】人工衛星によるセンシング等を活用した水稻育成・品質管理技術

⑥農業DXプラットフォームの構築

農業者のみのツールではなく、様々な場面・人が活用できるプラットフォーム。  
生産者、JA、研究機関等が活用することを期待している。

<質疑応答>

Q. スマート農業技術導入支援事業が始まったのはいつですか。

A. 平成31年4月から実施しており、財源は国の地方創生交付金が1/2と県1/2です。

Q. 補助事業へのニーズが高いですが予算拡充の見込みはいかがですか。

A. 県財政が苦しいので予算増額は難しいと考えます。これまでの県単独事業にも国庫補助を入れて県予算規模の縮小を考えているところです。

Q. スマート農業技術導入支援の4つのタイプの中でニーズが高いのはどちらですか。

A. 農業経営発展支援タイプです。

Q. 予算執行状況について、執行率は100%ですか。

A. 補助事業採択後に事業をやめる方が出てきたら次の方を事業採択して、予算を執行しています。

Q. 事業者が取り組んでいる品目の内訳はいかがですか。

A. 米が多くなっております。

Q. 機器の調達にあたり、業者選定及び機種選定はどのように行いましたか。

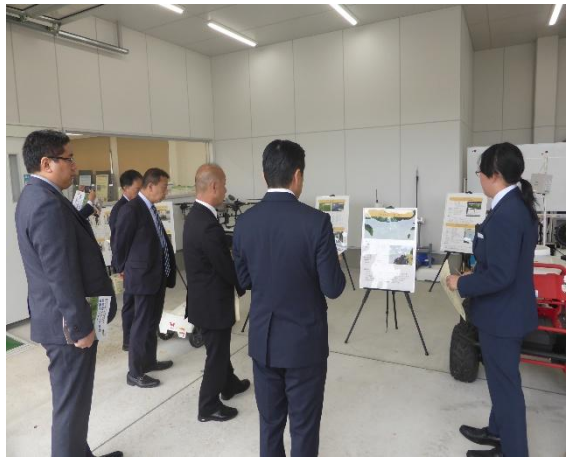
A. 入札を行ったと思いますが、当時は機器の種類が少なく、選択の余地があまりなかったと思います。

Q. 導入経営体数にカウントされているのは補助事業を受けた経営体のみですか、それとも、導入している経営体全てですか。

A. 把握できている導入している経営体全てです。

Q. スマート農業推進室の職員数と執務の状況を教えてください。

A. 職員数は5人で、スマート農業施策に取り組んでおり、研修会開催時等は現地へ行きます。



## 2 ストロベリーパークみふね

### 【調査目的】

ストロベリーパークみふねの概要及びいちご生産の取組について

### 【調査概要】

#### (1) ストロベリーパークみふねの概要

- ・2018年にTAIKEIファーム設立。2021年にいちご狩りスタート。2022年にみふねカフェがオープン。
- ・設立目的は、①耕作放棄地や遊休農地の解消、②農業の担い手不足の解消、③雇用の創出、④6次産業化を含めた農業経営安定化の4つある。
- ・栽培品種は、イチゴが章姫、紅ほっぺ、ゆめのか、かおり野、さちのか、よつぼし、天使のいちご、メロンはころたんを栽培している。

#### (2) ICT技術について

- ・ハウス内の温度、湿度等の環境管理が可能で、スマートフォン等から監視可能な統合制御装置を活用している。
- ・液肥システムにより、自動灌水および液肥の濃度調節による生育環境の提供をしている。
- ・遮光・保温シートにより、自動でカーテンを開閉し、適切な遮光・保温管理を行っている。
- ・加湿器により室内温度を高め、自動で生育に快適な湿度管理を行っている。

#### (3) IPM技術について

- ・UV-B（紫外線照射防除）、炭酸ガスやバンカーシートにより、ハダニ等を抑制・駆除をしている。
- ・次亜塩素酸水により除菌効果が期待される。
- ・コンクリート床により湿度が上がりにくくなり、病気の発生を防ぐことができる。
- ・ハウス棟の分割により、トラブル時のリスクを削減している。

#### (4) 地域貢献について

- ・身体障害者支援の取組として、製作された作品の展示・販売を行っている。
- ・1次産業だけでは収入が安定しないため、将来の農業に必要と考えている6次産業化の推進を行っている。
- ・地域雇用の場として50名ほど雇用している。
- ・農業研修の場として企業、小中学校等を受け入れている。
- ・イチゴ狩りの期間終了前に、地元の小学校、幼稚園、保育園を無料で招待している。

<質疑応答>

Q. 施設整備にあたり、補助制度を活用しましたか。

A. 市、県、国の補助制度を探しましたが、施設整備と補助制度の予算のタイミングが合わなかったため、大半の補助制度を受けることができませんでした。ただし、新型コロナウイルス関連の再構築補助金は受け取ることができました。その他、イノシシ・シカ対策の柵設置の補助金は数万円を受けることができました。

Q. 奈良県という農業研究開発センターのような施設から、知恵や知見を得られたことはありますか。

A. 当時はJ Aイチゴ部会の部員でしたが、観光農園立ち上げにあたり抜けなければなりませんでした。現在は、大学教授とその研究室、研究機関と交流しており、新技術の導入と栽培技術の向上に役立てたいと考えています。

Q. 省エネ、再エネ、脱炭素の取組について教えてください。

A. 農園単体では、農業はしておりますが、水、電気等を使うので、おそらくマイナスと思われるが、T A I K E I グループ全体では、所有しているメガソーラー発電所で発電し、ソーラーシェアリングをするなど、環境への配慮に取り組んでいます。グループの所有施設においても地熱発電や太陽光発電を取り入れ、環境への配慮に取り組んでいます。

Q. イチゴに取り組む理由を教えてください。

A. はじめは、イチゴ、トマト、ブルーベリー、バナナで悩みました。トマトに傾きかけましたが、業界大手のカゴメ株式会社への出荷が主となるため、当農園が掲げる6次産業化推進の理念に合わず、最終的にイチゴになりました。地域の農家との関係では、独占ではなく共存共栄でいきたいと考えており、差別化を図っております。

Q. 今後目指す方針について教えてください。

A. まずは、経営基盤を安定したいと考えております。元々イチゴ苗は購入しておりましたが、苗の供給は不安定のため購入できないリスクに対応するため、今年度は初めてイチゴ苗の栽培を始めます。イチゴ苗を14万から15万株を生産し、農園に7万株、半分は外売りとする予定です。



